

会報

No. 48

平成11(’99)年3月15日

京都府図書館等連絡協議会

事務局

京都市下京区西七条八幡町31
京都府立図書館仮施設内
TEL (075)321-0200

図書館と子どもと本

大阪国際児童文学館選書委員 大阪国際児童文学館選書委員 北畠

北畠はたひろ 博子



本を探しながら図書館の本棚の間を歩いたり、コンピュータの端末で検索したりしていると、さまざまな子どもの姿を目にします。カーペットの上で本を読んでもらっている幼い子、熱心に紙芝居を選んでいる親子、連れ立つてやってきて本を探し、丸いテーブルを囲んで話しかけている小学生、タッチパネルを操作しながら本を検索している子……最後の場面以外は、ずっと前から見慣れている図書館風景です。

一方さまざまなかなで若いお母さんたちに本の紹介をする時、「子どもにどんな本を読んだらいいのかわからぬ」、「図書館には本がたくさんあるので何を選べばいいのかわからぬ」と相談を受けることが増えています。図書館や公民館で開かれる子どもの本の講座への参加や、図

本を探しながら図書館の本棚の間を歩いたり、コンピュータの端末で検索したりしていると、さまざまな子どもの姿を目にします。カーペットの上で本を読んでもらっている幼い子、熱心に紙芝居を選んでいる親子、連れ立つてやってきて本を探し、丸いテーブルを囲んで話しかけている小学生、タッチパネルを操作しながら本を検索している子……最後の場面以外は、ずっと前から見慣れている図書館風景です。

この十年余り、私はブックトークに取り組んでいますが、そのブックトークを聞いた子どもの感想からもそれを感じます。「本を好きになつてしまつとしたつていません。でも、今日大好きになりました。それまで本が大きらいで、取り組みの時だけ読んでいました。今、何で私は本がきらいだったかは、本のことをあまり知らなかつたからだと思つました。ブックトーク、私は初めてで、こんなふうに聞き手に、あの続きを知りたいと思わせるには苦労しただろくなあと思つました。」「あんなに説得力があるのは、いろいろと本を読んで、いろんな所にブックトークを行つてゐるからだと思つます。読みたい本や知つてゐる本はいろいろあつたけど、図書館には本がいっぱいあるのに、良い本や読みた

いなあと思わせる本ばかり選んで、すごいなと思った。宇宙やきょうりゅうの本をすごくすきにならしてくれますように！」

て、どうもありがとうございました。どちらも小学六年の感想ですが、『なぜ本が嫌いだつたかは、本のことをあまり知らなかつたからだと思ふ』や『図書館には本がいっぱいあらは、これまで心底面白いと思ふのに、良い本や読みたいなあと思われる本ばかり選んで』といふくちを語つてゐるかのようです。そう、本は図書館にいつぱいあるのに……。広くて深くて魅力的な本の海や本の森へ行くまでのナビゲーターや、何があるのだろうと思わせる道路標識が、やはり子どもたちには必要な時代になつてゐるのではないでしょうか。辿りついた後はもちろん、泳ぐもよし漂うもよし、歩くもよし木登りするもよし、子どもたちまかせです。

ナビゲーターや道路標識にあたる人（図書館員はじめ様々な人）システム（公共図書館と学校図書館の連携ほかあれこれ）方法（ブックトークもその一つ）が子どものまわりにあふれて、「そんなの必要ないよ」と子どもから言われる日がいつか来る

実務研修会（中部会場）開催

二月五日に、パセオ・ダイゴローにおいて大石進氏（元京都女子大学附属小学校教諭）の「学校図書館と公共図書館とのつながりを考える—二つの図書館の交流を深める提言」について講演と読み聞かせがありました。

学校との交流を

京都市右京図書館
大道 紀恵

今回の研修会での、大石進先生の講演は、「学校図書館と公共図書館とのつながりを考える」というテーマで、平成十四年から施行される新しい学習指導要領により、学校図書館と公共図書館との連携による児童サービスが、ますます重要になってくるというお話をでした。

私自身、学校との交流をもつとしなければ…と思っていたので、今回の研修はとても興味深いものでした。私が勤めている右京図書館でも、児童対象に週一回の絵本の読みきかせ会、主に小学生対象に月一回のお楽しみ会を行ったり、また、調べもの学習の対応についても、来館する児童の声を聞き、そのレファレンスの中で得た情報を頼りに、毎年の



学校との情報交換があれば、不安が少し解消されるのではないかと思うていたので、これを機会に連携の話がもっと具体化され、実践されいくことを強く願っています。

日 程

二月十五日（月）

文部省説明「生涯学習施策の動向と公共図書館」
基調講演「日本における公共図書館の現状と課題」
共団書館の現状と課題」

「日本における公共図書館の現状と課題」要約 基調講演

十六日 施設見学
薬袋 秀樹

十七日 講義
大城 善盛

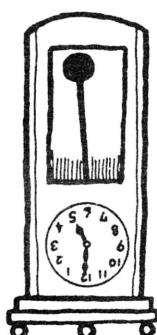
「二十一世紀の情報専門職としての司書」
五十嵐一郎

「公共図書館の経営」
五十嵐一郎

「図書館利用に障害のある人々へのサービス」
前田 章夫

「インターネット情報のレファレンス活用」
谷口 俊夫

平成十年度近畿地区公共図書館研修



十九日 講演
「障害学習の理念動向と公共図書館」
上杉 孝實

た。

これらを踏まえて、「図書館専門職員の配置」の理論的基盤の脆弱性を脱するには、専門職員の専門的職務と専門的知識と基礎的能力が必要であるとの証明の重要性を説いた。そして専門職員として図書館の意義と必要性の理解は不可欠であり、自己研修の基準として、司書として採用された職員は日団協の会員となる

学校の宿題の資料になる本ができるだけ購入するなど、努力しています。

しかし、これらはすべて手さぐり状態で、いろいろな意味での不安や限界があります。

あえて泥臭い話をとの前置きから、先ず始めに現在の「公共図書館をどう考える」として、①清水隆氏「図書館員の専門性を明らかにするために」、98・10、②日団協「国の図書館政策に関する緊急対策会議」、97・7、③伊藤浩氏「図書館の司書よ！人事異動せよ！」、97・12、④薬袋秀樹氏「読書案内サービスの必要性（後編）」、94・7、以上「図書館雑誌」の四点の論文に集約される現在の「公共図書館の研究方法」としては、①現状認識に必要なデーターを揃え、②図書館活動の成果と社会的・政治的条件を考慮し、③図書館サービスの理論的モデルと評価基準を明確にしなければならないことを順次論じられた。

これらを踏まえて、「図書館専門職員の配置」の理論的基盤の脆弱性を脱するには、専門職員の専門的職務と専門的知識と基礎的能力が必要であるとの証明の重要性を説いた。そして専門職員として図書館の意義と必要性の理解は不可欠であり、自己研修の基準として、司書として採用された職員は日団協の会員となる



Aタイプ（要求優先・資料提供重視）Bタイプ（多様なサービスと資料・多様な目的と収集）の二つに分けて説明し評価方法を検討した結果、図書館サービスの量と質のバランスを取り必要性、蔵書の多様化と情報ネットワークの普及にやぶさかであつてはならないし、大いにPRして来るべき図書館モデルの全体像を総合的評価と自由な討論のもと明確化しなければならないと結語された。

べきであり、会員でなければ図書館で働く資格はないし、自分自身の首を締めているに等しい。図書館界もいつまでも旧態のままであろうとまで極言されました。

施設見学に参加して

加茂町立図書館
森井 里美

二月十六日、近畿地区図書館研修の二日目の施設見学に参加させていただきました。

急速に進む中、多種多様な利用者ニ
ズにどのように対応すべきかを考え、
又、早急に情報源についての知識や
コンピュータの技術を身につけてい
かなければいけないのでないかと
改めて痛感しました。

「インターネット情報の
フレンス活用」（2／18講
義）に参加して

京都府立総合資料館

井田
茂子

るものがありましたし、生徒達も大勢利用されていて、私自身の経験上、この様な設備環境下で学生生活を送るのは大変羨ましく思いました。奈良先端科学技術大学院大学附属電子図書館についても、電子化された情報ネットワークを介して、いつでもアクセスできたり、図書館に直接行かなくても利用できるなど、近未来的な図書館の姿に驚嘆させられました。

—インダストリアル情報のレポートシステム活用—ネットワークと電子司書」と題して光華女子大学の谷口敏夫氏からお話を伺いました。

コンピュータの歴史や、粘土から紙へそしてコンピュータへと情報伝達手段の変遷 etc.。御自分とコンピュータの関わりなど、とてもわかりやすく、ユーモアにとんだ内容

トによる情報検索の利点、情報量の多さ、速さなど、また、欠点として出典の確実性の問題、著作権の問題など、図書館でのレファレンスの未来像を感じさせる講演でした。

特に印象が強かったのは、二十世紀にはコンピュータによるサービスは当然だが司書によるコンピュータのサービスも併用して統くだろうと言う事と、司書と利用者がマシンを同時に使いながら情報検索をし、そこからコミュニケーションが発生するだろう、という話でした。

続いて「WWW情報検索」と題して京都大学の橋本敬三氏の研究発表に移り、さまざまな検索の方法や、サーチエンジンのタイプ、検索上の注意として“ウマ”“馬”と入力するとすべてが検索できるなどの実際例の話があり、検索する時にとって役立つ内容でした。最後に、事例報告として「考古学サイドの発掘」が鍋田勇氏からあり、さまざま主題のしづら方など、検索上の実務、返される情報の数等、参考になりました。

午後はそれぞれのテーマを与えられ、インターネット情報を用いた検索実務を体験しました。午前中に研修を受けた話の実践をし、今までにない充実した研修会でした。

全国から集まつた二十四名の方々とともに、前・後期合わせて十五日間の講座を受講しました。前期は条例や建物設備、著作権といった、児童奉仕の基盤となることがらについて、後期はストーリーテリングや選書、レファレンス等の実務について、課題を提出し、それに基づいて講義を受けるという、中味の濃いものでした。そのすべてを紹介することはできませんので、特に心に残つた点をまとめて、報告としたいと思います。

まず第一に、「子どもの権利条約」の講師、大田堯氏との著者『子どもの権利条約を読み解く』（岩波書店）との出会いと、「ブックトーク」の講師、松岡享子氏の指摘によつて、徹底して子どもの側に立つことの大切さを学びました。

大田氏は、環境汚染や孤獨化など、子どもを取り巻く状況を踏まえた上で、キレる子ども、荒れる子どもたちを前に大人がなすべきことは、子どもの声に耳を傾け、大人自身が変わることだ、子どもは指導の対象ではなく、いのちを備えた主体であると力強くおっしゃいました。子どもの権利条約は子どものためのものというところでストップしていた、自分が認識の浅さに気づかせてくれた、大人が力を尽す必要を教わりました。松岡氏は、受講生のブックトーク

発表の講評として、聞き手への配慮がない点を指摘されました。一冊の本を紹介したら、子どもたちが次に何を期待するか、その気持ちに添つて、テーマを絞りこんだ組み立てをして、べきである。せっかく膨らんだ興味を横において、別の話についていかなくてはならない、やり手の都合優先のブックトークになつていなか。今一番求められている、一つのことを追究する姿勢を我々が持たなくてどうしますか、と奮起を促されました。心搖さぶられた、忘れられないメッセージです。

第十八回児童図書館員養成講座受講報告

舞鶴市立東図書館 和田 朋子

くのは蔵書ばかりではありません。ブックレビューやレファレンス記録、子どもたちの反応も添えたブックトークの記録、新聞や雑誌の記事の切り抜きなど、いずれも日々の蓄積がつて財産になるのだと感じました。

三つめに、児童奉仕をめぐる動きを踏まえられたことです。司書講習の必修科目になつたことによって、児童奉仕の基礎を学んだ人たちを現場に迎えるようになることや、司書の配置や充実を目指している学校図書館とは、今までのような学校訪問に止まらず、その全般にわたつて連携を強めていくことになるだろうといった話を聞き、私たちの担つている責任の重さを感じています。

こうして講座を修了したわけですが、修了イコール終わりではありません。豪華な講師陣の指導を受け、児童奉仕を足元から見直すことができたこのたびの研修は、新たな始まり、まさにこれからです。子どもたちに成果を還元できるよう、努めたいと思います。

今回参加に踏み切れたのは、何よりも、応援してくださった同僚や上司の支えがあつたからです。終わりになりましたが、紙面を借りて感謝申し上げます。

次に、読むことと蓄積することの大切さです。小河内芳子氏から、講座初日に、児童図書館についての基本的な文献を読むようすすめられたのをはじめ、「選書・蔵書構成」（荒井督子氏）では、選書のために読むのはもちろんのこと、よいものを見極める目を養うためには、極めつきの作品を読む人に尽きること、『ノンフィクション』（藤田千枝氏）では、科学の本は、同じテーマの本を読み比べる作業が有効なことを教わりました。そして積み重ねてい

十二月十一日に和歌山市のきのくに志学館（一階は県立図書館）で近畿公共図書館協議会奉仕部門研究集会が開かれ参加しました。

午前は「人との対話・聞き上手、話し上手なテクニックー利用者への接遇・利用者への気くばりのすすめー」と題した講演。講師羽山京子さんは、アナウンサーをされるだけあって、聞き手をひきこむ話し方で、わかりやすい内容でした。講演のポイントは“心で対話”をしてほしいということだったような気がします。そのために、より上手に会話のできるコツと、目線や表情などの表し方のコツを話されました。利用者への接遇がその図書館の“心”となるというふうに締めくくつておられました。日頃貸出や返却の対応が機械的になりがちですが、一人ひとりに心を込める必要があると改めて考えさせられました。

午後からは、人口一・三万人ぐらいいの三つの町の図書館からの活動報告。どの町も新館を開館するにあたつての苦労話や、開館してからの経過などを発表され、それぞれの町の特徴を生かした図書館運営を聞くこと

近公図研究集会に参加して

奉仕部門
京田辺市立中央図書館
西尾 洋子

ができました。その中で私が一番興味を持ったのは、BDS(Book Detection System)自動紛失防止システム)や自動貸出機を導入した奈良県三郷町立図書館の発表でした。

施設的にも一度見学してみたいと思った発表内容でした。

今回この原稿の依頼がきた時、印象が強く残った三郷町立図書館を実際に見ておきたいと思い、出かけることにしました。近鉄生駒線信貴山下駅のすぐ前。開架室入口のBDSはさほど気にならず、中に入つて柱が一本もない空間が広々と見えました。貸出がだれでもできるということがでたので、私も貸出券を作つてもらい、利用者として自動貸出機での貸出を経験してきました。いろいろなところに利用者の使いやすさを考えていたすてきな図書館で、実際に見学させていただけてよかったです。

近公図参考事務部門

宇治市西宇治図書館

嶋田 ゆみ

明石市で開催された、近畿公共図書館協議会、参考事務部門研究集会に参加させていただきました。研究主題が「これからレファレンスネットワーク」ということで、大変興味をもつて事例発表を拝聴しました。京都府立総合資料館の岡田さんのお話からは、情報の電算化が進む中でも、やはり最後は図書館員の専門

家としての知識や技量だ、ということを再認識しました。

大阪府立中央図書館の仙田さんの

発表からは、コンピュータによるレンタルシステムを集中的に管理する、データベース室でのトラブルメントナンスの苦労を、我事のように聴きました。

大阪市立中央図書館の川窪さんの発表は、これからの図書館の課題が凝縮されたような内容でした。大阪市のメイン図書館として、その目まぐるしい利用状況にも感心しました。のみならず、商業地という立地条件も、敷地差を利用した半地下構造で道路に面しているため、地下室の感じは全くありません。開架スペースは五四六、三九坪、入り口を入つて見える書架は四段書架なので館内が見通せる明るい雰囲気となっています。また自然光が入るドライエリアもあり、自由に出入りができるので、自分がリラックスできる場所で思い思いに読書することはあります。

検索やレンタルシステムとの連携でデータベースを活用していくことの問題点や課題は山づみで、なくなることはないのは確かです。どんどん新しくなるデータベースの更新とそれにかかる費用、またスタッフの知識と訓練、利用者側の理解や、パソコンへの精通度、著作権の問題、まだまだあります。本当に図書館の未来は大変だということです。

私の図書館はまだ規模も小さくデータベースも持っていない現状です。しかし近い将来、持つことになるかもしれません。この日の集会で大変よい勉強をさせていただいた思いです。

新館紹介

園部町立園部中央図書館



される方の姿を目にします。

館内の一室にあるマルチメディア

アライブラーには、CD-ROM検索用端末二台、ビデオブース

三台とCDプレーヤー一台を配置し、気軽に利用できるようになります。利用は一人一時間以内で、利用カードをお持ちの方に限ります。使い慣れた方ばかりでなく初めての方も、どんどんチャレンジされるので、人気の高いコーナーになっています。

また、町内の四小学校と中学校、園部高校に、図書館にある利用者端末と同じものを配置し、学校から遠隔にある三小学校を対象に三学期から図書の配達サービスを開始しています。貸出希望の本は週に一度FAXされ、毎週木曜日に学校給食の配達車を利用して運搬車で配達する仕組みです。開始したばかりで課題もありますが、平日図書館に来れない子どもたちの役にたてればと考えています。

三か月がはや過ぎましたが、以前どちがつた利用者の方々の要求を感じながら、日々努力していきたいと思いますので、今後ともどうぞよろしくお願ひいたします。

けいはんな学研都市図書館長

連絡会(仮称)の報告

精華町立図書館

澤田 種治

関西文化学術研究都市の地域内にある三府県の図書館長による連絡会を一月二十一日に精華町光台にある「けいはんなプラザ」で開催しました。この会が発足する動機は平成十一年に枚方市で行われた同地域内にある教育委員会の教育長会議(教育長サミット)の際に国会図書館関西館問題などをテーマに図書館長の交流をすすめたらとのことがきっかけです。

参加館は京都府から京田辺市、木津町、精華町の三町と奈良市、枚方市など関西文化学術研究都市のエリア内の八館です。当日の会議の進行は、関西文化学術研究都市の活動を紹介したビデオを観賞して施設や活動の概要を把握し、そのあと、現在の国立国会図書館のサービスの内容について開館時間や二十才未満の入館制限、図書館に対する貸出冊数(十冊が限度)などの実情や関西館の概要を配布の資料で澤田が紹介説明しました。これに続いてオブザーバーとして出席の学研都市推進機構から関西館準備室が計画している内容の説明がありました。

これらをうけて、各館から関西館に対する期待や要望などを述べてもらいました。その主な内容は「地元にある国際的図書館として活用できやすい施設に」「休日の開館をぜひ見て欲しい」「地元の大学生が利用できる図書館に」「蔵書の検索や参考

事務の回答を迅速に」など利用しやすい開かれた図書館との意見が出ました。このほか「関西館への要望は各府県の図書館協会でまとめて、広い範囲で意見調整をはかることが必要である」との意見があり、各館

長がそれぞれの地域で働きかけを行うことを申し合わせました。

この会議は今後も続けて行うことにして、当面は国会図書館関西館の活用について協議をすすめることにしています。

◎ 特別委員会より

市町村の電算機調査について
府立図書館総合目録ネットワーク化に向けて、各市町村の電算システムの状況を把握し、参加をスマーズに進めるため、実態調査を実施します。

調査によつて得られた情報によりシステムへの機能追加や、各市町村同士の連携が強まれば、より無駄なく計画を進めることができます。

ご協力を願っています。

◎ 研修研究委員会より

三月十一日(木)午後、園部町立園部中央図書館において相互協力実務担当者会議を開催しました。

前半は、野田川町、精華町等からの事例発表や、府立図書館の十一年度の予定等についての説明を受けて、協議を行いました。

◎ 広報委員会より

一月十五日付で会報第四十七号を発行しました。

一月二十一日に木津町中央図書館実務研修会(中部会場)は、「学校図書館と公共図書館の交流を考える」とのテーマで開催し、小学校と中学校から五名の先生が参加され、充実した研修会となりました。

委員一同大変な勇気を与えられるとともに来年度は一層の努力が必要と気をひき締めております。

◎ 相互協力委員会より

三月十一日(木)午後、園部町立園部中央図書館において相互協力実務担当者会議を開催しました。

このところ府内では、国立国会図書館関西館、府立図書館の建設。そして、京都市新中央図書館建設構想と、施設の充実が図られています。

我々図書館職員も負けずにレベルアップしなければと思うこの頃です。